

川崎医療短期大学における「日本語プレースメントテスト」の実施結果

橋本 美香¹, 山口 恒夫¹, 下田 健治², 大高 正憲³

Results of the Japanese Placement Test at Kawasaki College of Allied Health Professions

Mika HASHIMOTO¹, Tsuneo YAMAGUCHI¹, Kenji SIMODA² and Masanori OTAKA³

キーワード：日本語プレースメントテスト, リメディアル教育, 語彙, 専門用語, 社会人基礎力

概 要

本稿は、川崎医療短期大学において2007年度と2008年度の新入生に対して実施した「日本語プレースメントテスト」の実施結果を報告することを目的とする。「日本語プレースメントテスト」は、2007年度は全国で54大学約2万9千人に実施されている日本語の語彙力を測定するためのプレースメントテストである。テスト内容は、高校3年生までに学習する語彙を基につくられており、社会生活を営む上で必要とされる語彙を十分に身につけているかどうかを測るものである。社会人基礎力が低下している現在にあって、このような語彙を身につけていることは非常に重要であると考えられる。

川崎医療短期大学において2007年度と2008年度に実施したテストの結果、中学生レベルの語彙力しかない新入生が増加傾向にあることがわかった。したがって、学力とともに社会人として十分通用する人材を育成するためにも、該当する学生に対して語彙力の向上を図る必要性があることが明らかになった。

1. はじめに

川崎医療短期大学では、2007年度から新入生の語彙力を測定するために「日本語プレースメントテスト」を実施している。今回の報告では、2007年度、2008年度新入生の「日本語プレースメントテスト」の実施結果を示すことにする。はじめに、日本語プレースメントの全体像とこれに対応したリメディアル教材を示したうえで、「日本語プレースメントテスト」の領域である「語彙」について考え、川崎医療短期大学の新入生が抱える問題点とその対策を講じる手がかりとした。

2. 「日本語プレースメントテスト」について

基礎学力の低下にともなう学生間の学力の格差の拡大によって、基礎学力の低い学生に適切で効果的な教

育活動を行うことが問題となっている。「日本語プレースメントテスト」は、この状況下で、学生一人ひとりの基礎学力を正確に測定するためにメディア教育開発センター（NIME）が開発したものである。その応用・普及に関しては（財）日本生涯学習総合研究所とメディア教育開発センターが共同研究を実施している。このテスト内容は、延べ約20万人に実施したパイロットテストの結果に基づき、各問題の難易度や識別率を算出し、「項目応答理論」に基づいて作成されている。また、リメディアル教育（高校教育の補正・補習授業）の実施、習熟度別クラスの編成などにも利用することができるように作られている。

習熟度別クラス編成をするにあたっては、「日本語プレースメントテスト」がどのような力を測っているかを考える必要がある。これを考えるうえで、「日本語プレースメントテスト」と連動しているリメディアル教材が参考となるため、次にリメディアル教材について示すことにする。

リメディアル教材には、『実用日本語 語彙力養成ドリル3級』¹⁾ 『日本語再発見』²⁾などがみられる。『実用日本語 語彙力養成ドリル3級』は、「日本語プレースメントテスト」と同じような出題形式・出題傾向となっており、1回当たり10問で構成され、30回で終了す

(平成20年10月15日受理)

¹⁾川崎医療短期大学 一般教養, ²⁾川崎医療短期大学 臨床検査科

³⁾川崎医療短期大学 事務部教務課

¹⁾Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions

²⁾Department of Medical Technology, Kawasaki College of Allied Health Professions

³⁾Education Affairs Section, School Office, Kawasaki College of Allied Health Professions

る形式になっている。『日本語再発見』は、ペアワークなどにより、表現する力を引き出すように作られている。加えて、到達度を測るための『実用日本語語彙力到達度テスト』もあり、「日本語プレースメントテスト」と同様の出題形式・出題傾向となっている。したがって、「日本語プレースメントテスト」は、日本語力の中でも語彙力に特化したプレースメントテストであるということが確認できる。

3. 語彙力到達度

語彙力は理解力や表現力と直結するものであり、語彙力を伸ばすことが、国語科の学力だけではなく、すべての教科の基礎学力の向上に繋がるとされている³⁾。「日本語プレースメントテスト」の結果は、単純にスコアだけで示される。そのため、それぞれの学生がどのような傾向を示すか、またどのような観点からテストが行われているかについて窺うことができない。一方で、「日本語プレースメントテスト」と出題形式・出題傾向が同じであると考えられる『実用日本語語彙力到達度テスト』は、その測定にあたって、語彙力を以下のように分類し成績化している。

(1) 設問別成績

- ①漢字の理解（漢字の読み・漢字の書き・熟語の完成）
- ②語句の意味・定義（語句の定義・異質語句の選択・対義語・類義語）
- ③語句の用法（語句の状況・語句の用例・短文の完成・会話文の完成）

(2) 語彙別成績

- ①慣用句・慣用表現
- ②二字熟語
- ③三字熟語・四字熟語

④和語・そのほか

したがって、「日本語プレースメントテスト」においても、上記について測定していることが推測できる。

さらに、語彙力のテストについては、旺文社が母体となり1999年に設立された生涯学習センターによって実施されている「実用日本語 語彙力テスト」2級・3級がある。これは、単なる到達度の測定だけに限らず、日本語の語彙力を客観的に測定することを目的とし、広く社会一般の人を対象にしているテストである。この試験の問題集には『実用日本語ことばワーク3級』⁴⁾『実用日本語ことばワーク2級』⁵⁾がある。この問題集は、表1にあるように、中学から高校までの学習活動に対応しており、これに加えて活動を営む上で必要とされる十分な語彙を身につけていることが、レベルの判断基準となっている。中学から高校までの語彙に基づいていることから、「日本語プレースメントテスト」と対応する形になっているといえる。また、これらの問題集には「実用日本語語彙力テスト」が学習指導要領・国立国語研究所の文献やその他の研究資料等の語彙を基に作られていることも明示されている。

以上のことから、「日本語プレースメントテスト」は、高校までに習得が必要な語彙について網羅しているといえる。そのため、高校までの語彙教育がどのようなになっているのかを検討する必要があると考えられる。そのため、次に語彙とはどのようなものか、示すことにする。

4. 語 彙

語彙とは、「ある言語表現において認められるすべての見出し語⁶⁾から成る集合を〔その言語表現〕語彙という⁷⁾とされている。教育のための語彙については、たとえば「学習基本語彙」⁸⁾は、児童が将来健全な社会

表1 実用日本語の内容と各級の程度

級		程度
2級	高校中級程度	高校中級程度の各教科を含むさまざまな学習活動に対応でき、その後の社会生活を営む上で必要とされる十分な語彙を身につけている
3級	中学卒業～高校初級程度	中学卒業～高校初級程度の各教科を含むさまざまな学習活動に対応でき、その後の社会生活を営む上で必要とされる基本的な語彙を身につけている
4級	中学中級程度	中学中級程度の各教科を含むさまざまな学習活動に対応でき、身近な社会生活を営む上で必要とされる語彙を十分に身につけている
5級	中学初級程度	中学初級程度の各教科を含むさまざまな学習活動に対応でき、身近な社会生活を営む上で必要とされる語彙を身につけている

『実用日本語 ことばワーク2級』『まえがき』 旺文社 2007年

人として豊かな言語生活を営む上で、その的確な理解と使用に欠かせないものだと考えられる語を選び出すことが基本だと述べ、教育的観点だけでなく、一般社会における重要性を加味して選定していると考えられている⁹⁾。

国語教育に限定すると小学校から中学校までの義務教育期間に、子どもに学習させることが望ましい単語と定義されている「基本語彙」については、以下のよう分類することができる⁹⁾。

1. 理論的な試みとしての基本語彙
2. 表現力を支える基本語彙
3. 理解力を支える基本語彙
4. 思考・認識力を支える基本語彙

しかし、現在のところこれらについても、どのように実践教育に生かすのか、どのように語彙を分類、整理するのかなどの問題点も残っている¹⁰⁾。

本学では、医療・福祉を専門的に学んでいくことになる。そのため、語彙の中でも専門用語について考える必要がある。この専門用語とは、広義では、職業語と同義であるが、狭義では、学術・技術・芸術・法律・宗教などいわゆる知的職業に従事する人々の運用することば¹¹⁾の意味である。

このような専門用語は書き言葉の世界で生み出され、使われてきたものである。戦後、常用漢字を用いることなどを基準にした学術用語の制定が、文部省を中心として行われた。しかし、医学用語については、このような選定の規範に沿っていないものである¹²⁾。これは現在の医療系の国家試験の問題などにも反映されており、高校までで学習する常用漢字以外の漢字についても「看護師」¹³⁾「診療放射線技術師」¹⁴⁾「臨床検査技師」¹⁵⁾の問題に振り仮名は付されていない。医学系の専門用語で使われている漢字には、高校までに学習していない漢字が含まれ、そのため難解であることを念頭においておく必要がある。

5. 社会人基礎力と「日本語プレースメントテスト」

ここで、もう一度「日本語プレースメントテスト」の内容について考えてみたい。「日本語プレースメントテスト」後に実施することのできる教材・テストには『実用日本語 語彙力養成ドリル3級』¹⁶⁾『実用日本語ことばワーク3級』¹⁷⁾『実用日本語ことばワーク2級』¹⁸⁾と、「実用」という語が付されている。これは「専門用語」とは、対峙する内容であるといえよう。実際に「日本語プレースメントテスト」の問題は「教育基

本語彙」¹⁹⁾『分類語彙表増補改訂版』²⁰⁾と合致するものとなっている。それでは、実用的な日本語というのは、学生にとってどのような意味を持つのであろうか。

経済産業省は、図1、2に示すように「社会人基礎力」を重要視している。これは、専門的な知識、基本的な読み・書き、数学、基本ITスキルなどの基礎学力に加えて、コミュニケーション、実行力、積極性などを重視することを指す。そのためには、小・中・高等学校までの段階的な基礎学力が必要であるとされている。さらに、学生の社会人基礎力の格差が拡大する中、従来型の教育手法では社会人基礎力を含めた育成効果は限定的だとされる。また、近年、学力と社会人基礎力との相関関係が低下しており、企業は、採用段階等において社会人基礎力を独立した要素として意識するようになってきている。

このような状況の中で、「日本語プレースメントテスト」において中学・高校1、2年生レベルのスコアと位置付けられた学生が社会人基礎力を身につけることができているとは考えられない。将来、対人援助をする職業に就く学生を養成する本学では、「日本語プレ

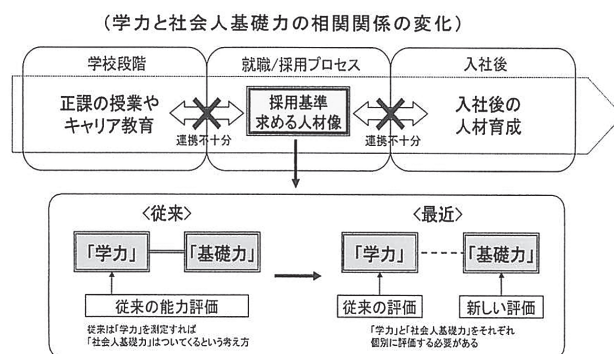


図1 社会人基礎力に関する研究会「中間とりまとめ」2006年 経済産業省

＜知識教育と実践教育の成長の好循環＞

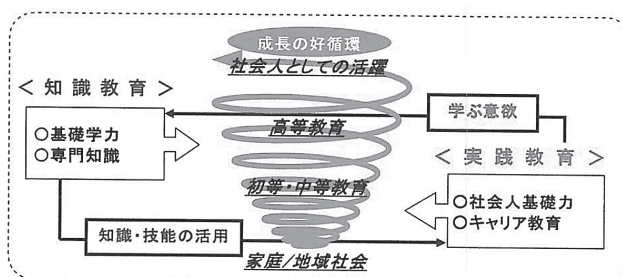


図2 『「社会人基礎力」育成のススメ』平成18年度版リファレンスブック 2007年 経済産業省

メントテスト」の領域の語彙力を身につける必要があることは明らかであろう。

すでに、本学の学生の課題として「老年看護実習での高齢者とのコミュニケーションにおける教育課題」²¹⁾において、敬語の使い方が挙げられている。敬語について、例えば「食べる」の謙譲語が「いただく」であり、尊敬語が「召し上がる」というように、語彙を体系的にとらえなければ運用することが難しいと考えられる。これに加えて、「れる」「られる」を用いた尊敬語について、「来れる」「食べれる」といったいわゆる「ら抜きことば」については、文法的な体系も理解できていないために起こるものである。また、敬語も「日本語プレースメントテスト」で測定されており、コミュニケーションに必要な日本語であることから、一般語の拡充も必要であると考えられる。

6. 2007年・2008年度新入生の「日本語プレースメントテスト」結果

「日本語プレースメントテスト」と語彙についてみてきたが、これらを踏まえたうえで昨年度（2007年4月）と今年度（2008年4月）に実施した新入生の「日本語プレースメントテスト」の結果をみていくことにする。2007年度と2008年度の「日本語プレースメントテスト」の結果は図3ならびに表2、図4ならびに表3に示すとおりである。参考として、図5ならびに表4、図6に学科別・入試区別の結果も掲載する。

2007年度は、全国で54大学約2万9千人が実施しているが、国立大学の新生は、9割が高校三年生のレベルであるとされている²²⁾。本学においては、2007年度では、高校3年生レベルのスコアの学生が46.8%であった。一方、中学生レベルとされるスコアの低い学生は、10.7%であった。社会人としてふさわしいと考えられる語彙力が、高校3年生レベルであることから、本学の新生の約半数が社会人としての一般語の能力に問題があると考えられる。これに対して、2008年度は中間スコアの学生が少なく、スコアの高い学生と、スコアの低い学生の分布が多くなり2極化している。特に、中学校レベルが、25.0%まで増加し、高校3年生が32.5%と減少している事実から目を背けるわけにはいかない。中でも、中学生レベルの学生については、なんらかの対策を講じなければ、就職試験で苦境に立つ可能性があるだけでなく、たとえ卒業できたとしても、社会人としての基礎力に欠けていると判断される可能性もある。

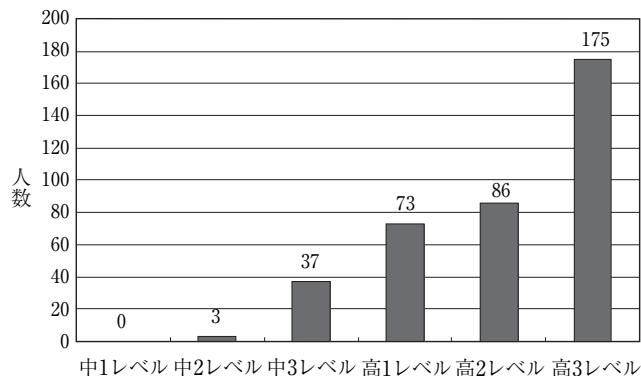


図3 2007年4月新入生のレベル分布（全体）

各レベルのスコアは次の通りである。中1レベル（454以下）中2レベル（455～488）中3レベル（489～531）高1レベル（532～568）高2レベル（569～594）高3レベル（594以上）

表2 2007年度 各学科のスコア分布

学 科	最高スコア	最低スコア	平均スコア
A	723	489	577
B	731	515	632
C	738	519	594
D	684	485	574
E	672	485	583

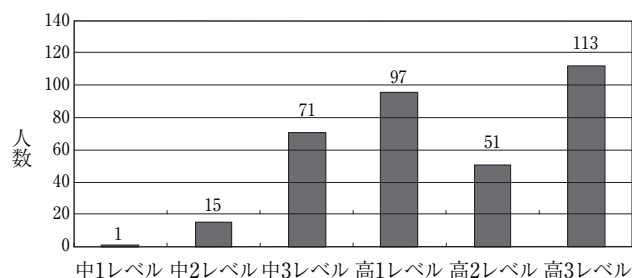


図4 2008年4月新入生のレベル分布（全体）

スコアとレベルの相関関係については、表1を参照のこと

表3 2008年度 各学科のスコア分布

学 科	最高スコア	最低スコア	平均スコア
A	712	459	563
B	746	498	606
C	742	482	594
D	655	486	550
E	661	450	555

さらに、図5から学科内でもC学科をはじめとして、スコアの分布に広がりが見られることが分かる。語彙力については中学1年生と社会人が机をならべているような状況になっている。このため、中学生レベルの学生には、ある程度の語彙コントロールをおこない、

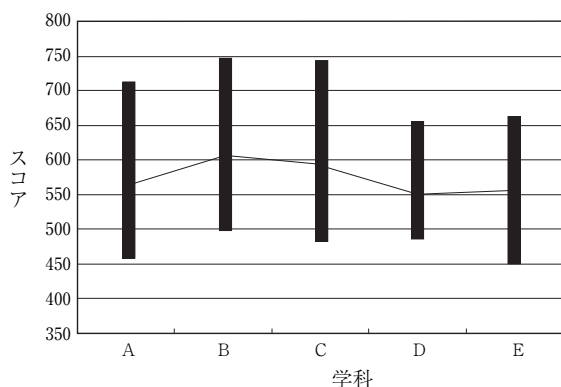


図5 2008年度 各学科分布状況

スコアとレベルの相関関係については、表1を参照のこと

表4 2008年度 入試区分別得点（平均点）

学科	AO	特別	推薦	一般前期	一般後期	
					A	B
A	539	561	578	573	536	498
B	—	587	605	622	577	—
C	—	564	602	601	610	—
D	538	555	545	577	—	—
E	559	553	544	561	—	—

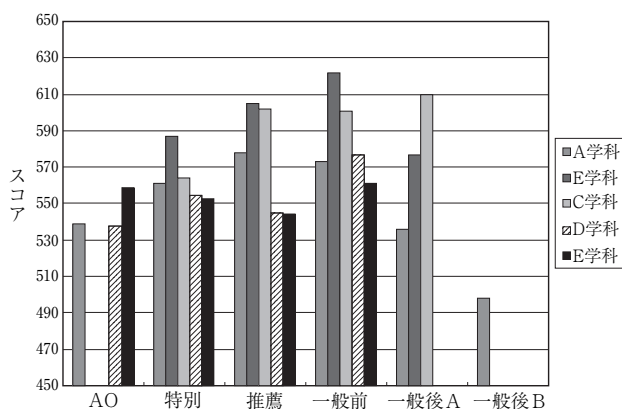


図6 入試区分別スコア

スコアとレベルの相関関係については、表1を参照のこと
AO入試・一般前期試験・一般後期試験について学科によってデータの無いのは、その入試区分を実施していないことによる

平易な表現を用いる、あるいは語彙の意味内容を説明するなどの措置をとる必要もあるのではないだろうか。加えて、図6にあるように入試区分別の結果から、AO入試・特別入試・推薦入試と合格の時期が早い学生ほど、全体的な傾向として語彙力が低い傾向にある。ただし、AO入試の合格者の語彙力が高く、一般入試前期の合格者の語彙力の平均得点に近接している学科

もみられる。これは、合格した学科に対し、入学希望が強いことの表れであると考えられる。しかし、全般的には、入学が決まる時期が早い学生ほど、語彙力が低い傾向があるため、これらの学生に対し何らかの措置をとることが急務であるといえるのではないだろうか。このような状況の対策の一つとして、平成19年度私立大学等経常費補助金特別補助を運用し、2008年度のAO入試・特別入試・推薦入試合格者を対象とした入学前学習から、e-ラーニング・テキストなどによる日本語学習の取り組みをはじめている。

7. 考 察

現在、高校までの国語力については、以下のことが指摘されている²³⁾。

- (1)メタ的読解力についての弱さ
- (2)推理・推論をする力の弱さ
- (3)吟味する力・批判する力・判断する力の弱さ
- (4)記述問題の無回答率の高さ

したがって、入学するまでに、すでにこのような問題を抱えている学生が存在することを認識する必要がある。このような状況の中で、「日本語プレースメントテスト」結果から判断できる、語彙力の不足について、どのように対応するべきであろうか。

まず、社会人として通用するように教育基本語とされる重要な語句の拡充が必要となるであろう。これと平行して、高校までに学習した各教科の用語が理解できているかどうかを確認する必要がある。加えて、専門用語の中で漢語の占める割合が非常に高いことから、漢字力の向上も、重要になってくるであろう。

また、語彙の階層性を理解することも重要になると考える。一つ一つの語彙の意味を理解し、体系的に語彙を把握したうえで、文章化することが必要であるからである。これを考えないことが、現在、小論文などの文章の中に、主述の不一致（文のねじれ）ができる、あるいは明確に自分の考えを表現できないといった問題の根底にあると考える。

知識を確実に身につけるための基本的な方策は、できるだけ多くの関連性に注目し、その核となるものを相互に結びつけネットワーク化することであるとされる²⁴⁾。このようなネットワーク化は、言葉を媒介とするものであると考えられる。ネットワーク化によって、敬語などの運用も可能になり、さらに自主的に語彙量を増やすことが可能になるのではないだろうか。

さらに、専門用語に注目すると、高校から大学への

橋渡しをする必要があると考えられる。なぜなら、以下のようなケースがあるからである。

- (1) 高校までは常用漢字以外は、振り仮名がふさされていたが、医学用語として大学で学ぶ際は、振り仮名が付されていない（例：「腎臓」）
- (2) 同じ漢字でも読み方が違う（例：「頭蓋骨」²⁵⁾
- (3) 同じ意味でも漢字が違う（例：「神経繊維」と「神経線維」²⁶⁾
- (4) 同じ漢字でも意味が違う（例：「卵膜」²⁷⁾

したがって、上記のような相違は、意味の把握をするうえで語彙力の低い学生を、混乱させる可能性があり、注意が必要である。

「日本語プレースメントテスト」は、社会人として豊かな言語生活を営む上で、その的確な理解と使用に欠かせないものだと考えられる語を選び出し、教育的観点だけでなく、一般社会における重要性を加味して選定していると考えられていた。専門用語が特定の集団の中で使う言葉としての意義をもっているとするれば、専門用語と高校生までに身につける教育語彙とは全く別のものであると考える必要がある。実際に、「日本語プレースメントテスト」の語彙を調査すると、専門用語との重複はほとんどみられない。

したがって、「日本語プレースメントテスト」の結果、高校3年生レベル以下と判定された学生については、社会人基礎力としての日本語力に不十分な点があるとの認識をする必要がある。さらに、専門用語に漢語が多いことは、漢字力の向上も念頭においておく必要があるだろう。

現在、最終学年の学生に以下のような相談を受ける。

- (1) 履歴書が書けない
- (2) 病院実習の依頼文・お礼状が書けない
- (3) 暑中見舞いが書けない
- (4) 封筒の表書きの書き方が分からない

これは、社会人基礎力としての語彙力の欠如が露見しているといえるのではないだろうか。社会人としての基礎学力を養うために、まずその高校3年生レベルに引き上げる必要がある。また、短期大学の教育については、国家試験の合格が第一義となり、一般教養が不足するという傾向がみられる。これを補完するためにも、各教科の高校までに必要な語彙力を身に付けることが必要であり、それが理解力や物事を体系的にとらえることの基礎になるということを念頭置いて教育を行う必要があるのではないだろうか。

大学における初年次・導入教育（広義）については、

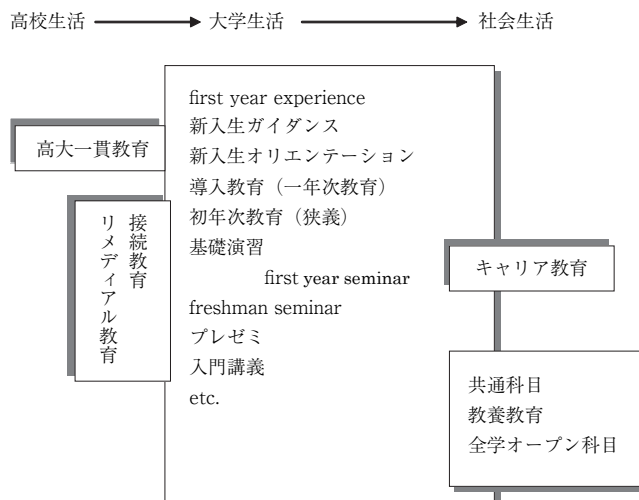


図7 初年次・導入教育（広義）の範囲と種別

石田²⁸⁾によって図7のようにとらえることができるものであり、単に入学当初や入学年度に焦点をあてる教育ということにとどまらず、社会生活を円滑に送るためのものでもあり、大学の中核的な教育施策として位置付けられることが望ましいとされている。したがって、本学における初年次教育・導入教育・リメディアル教育も、大学全体で取り組む必要があると考えられる。

日本語に関しては、一般教養科目としての「日本語」「文章表現」の講義の開講だけにとどまらず、社会生活が円滑に行えるような語彙力・敬語を用いたコミュニケーション・専門用語としての語彙の教育に加えて、レポートなどにおいて的確に語彙が運用できているか、文法的な誤りはないかなどのチェックとフィードバックといった総合的な取り組みをしていくことが、必要であると考えられる。

8. おわりに

本学は、医療・福祉の専門家を養成する短期大学である。したがって、日本語によるコミュニケーションが円滑にできる社会人として、社会に送り出す必要があると考える。その能力を支える語彙力があるかどうかを見極めるうえで、「日本語プレースメントテスト」は有効であるといえるであろう。また、語彙力のレベルの低い学生に対して、語彙の説明をする、語彙コントロールをするなどの何らかの方策をとることが必要であると考えられる。

9. 文 献

- 1) 宮腰 賢：実用日本語語彙ドリル3級，旺文社，2006.
- 2) 小野 博：やってみればおもしろい！大学生のための日本語再発見，旺文社，2006.
- 3) 生涯学習検定委員会：まえがき，実用日本語 語彙力養成ことばワーク2級，旺文社，2007.
- 4) 生涯学習検定委員会：実用日本語ことばワーク3級，旺文社，2001.
- 5) 同注3
- 6) 「見出し語」とは，意味形式上同じとみてよい元〔すなわち単語〕から成る集合Uを〔それらの単位語〕をいう.
- 7) 国立国語研究所：国立国語研究所報告13，現代語の語彙調査 総合雑誌の用語 後編，語彙調査の成立根拠と基本的諸概念の定義，1958.
- 8) 中央教育研究所：学習基本語彙 研究報告 第25冊，中央教育研究所，1984.
- 9) 国立国語研究所：国立国語研究所報告116 日本語基本語彙—文献解題と研究—，東京：明治書院，2000.
- 10) 同注9.
- 11) 青戸邦夫：学術用語の制定，学術月報，8—12，1956.
- 12) 石井正彦：専門用語の実態と漢字，漢字講座第10巻 現代生活と漢字，東京：明治書院，pp. 226—249，1989.
- 13) メジカルフレンド社編集部：2008年度版看護師国家試験問題 解答 解説，東京：メジカルフレンド社，2007.
- 14) 国家試験問題本郷研究会編：2008年度版<最新>診療放射線技士国家試験問題集，東京：医療科学社，2007.
- 15) 「検査と技術」編集委員会：臨床検査技師国家試験問題集 解答と解説，東京：医学書院，1980—2008，2007.
- 16) 同注1
- 17) 同注4
- 18) 同注3
- 19) 国立国語研究所編：国立国語研究所報告117 教育基本語彙の基本的研究—教育基本語データベースの作成—東京：明治書院，2001.
- 20) 国立国語研究所編，国立国語研究所資料集14.
- 21) 榎本朋子，須田厚子，田邊美津子：老年看護学実習での高齢者とコミュニケーションにおける教育課題，川崎医療短期大学紀要27：19—24，2007.
- 22) 大学の實力 教育ルネサンスNo.850，読売新聞，2008年6月5日.
- 23) 耳塚寛明他：お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 誕生から死までの人間発達化学 第4巻 学力とトランジションの危機—閉ざされた大人への道，東京：金子書房，pp. 47—83：2007.
- 24) 下田健治，名木田恵理子，中西啓子，村中 明，内山克良，山口恒夫：学習観および学習方略に関する調査，川崎医療短期大学紀要23：9—18，2003.
- 25) 「頭蓋骨」は「ずがいこつ」『日本国語大辞典』（小学館，2000年）『分類語彙表増補改訂版』（国立国語研究所資料集14，大日本図書，2004年）『教育基本語彙の基本的研究』と読み，表記は「頭がい骨」であるが，『医学大辞典』（医学書院，2003年）では，「とうがいこつ」である.
- 26) 『分類語彙表』『教育基本語彙の基本的研究』に，「線維」の表記はみられず，「繊維」のみである．『日本国語大辞典』の表記も「神経繊維」のみであり，「線維」の表記はない．一方，『医学大辞典』には「線維」のみであり，「繊維」の表記はみられない.
- 27) 「卵膜」は『分類語彙表』（国立国語研究所資料集14，大日本図書，2004年）『教育基本語彙の基本的研究—教育基本語彙データベースの作成』（国立国語研究所報告117，明治書院，2001年）には，記載がないため，日本語として頻度の高いものではなく，重要な語句とは考えられていないといえよう．しかし，たとえば学習指導要領に基づいている『生物教育用語集』（日本動物学会・日本植物学会編，東京大学出版，1998），『医学大辞典』（医学書院，2003）では，意味内容が全く異なっている．『生物教育用語集』には，「動物の卵細胞を包んでいる皮膜の総称で，卵細胞の細胞膜よりも外側にあり，それとの境界の明瞭な層はすべて卵膜とよぶ」とある．一方『医学大辞典』には，「卵膜は羊水を包む膜であるが，組織学的には3枚の膜の重層によって構成されている．（中略）生物学的には，『胎膜』というが，ヒトの場合は卵膜といわれる」とある.
- 28) 石堂常世：大学における初年次・導入教育に関する研究，早稲田教育評論第22(1)：83—103，2007.

【追記】

2008年10月21日に国立国語研究所において『「病院の言葉」を分かりやすくする提案』の中間報告が発表された．患者の理解と判断を支える医療の実現のためには，医療機関で使用する言葉の内容を患者が理解する必要があることが示されている．その中で，医療機関で用いる言葉の分かりにくさをなくしていくための工夫として，3つの類型（類型A：日常語で言い換える，類型B：明確に説明する，類型C：重要で新しい概念を普及させる）に分けることが提案されている．したがって，今後ますます医療・福祉の現場では，豊かな語彙力が必要になると考えられる．

詳しくは，国立国語研究所のサイト（<http://www.kokken.go.jp/byoin/>）を参照されたい．

